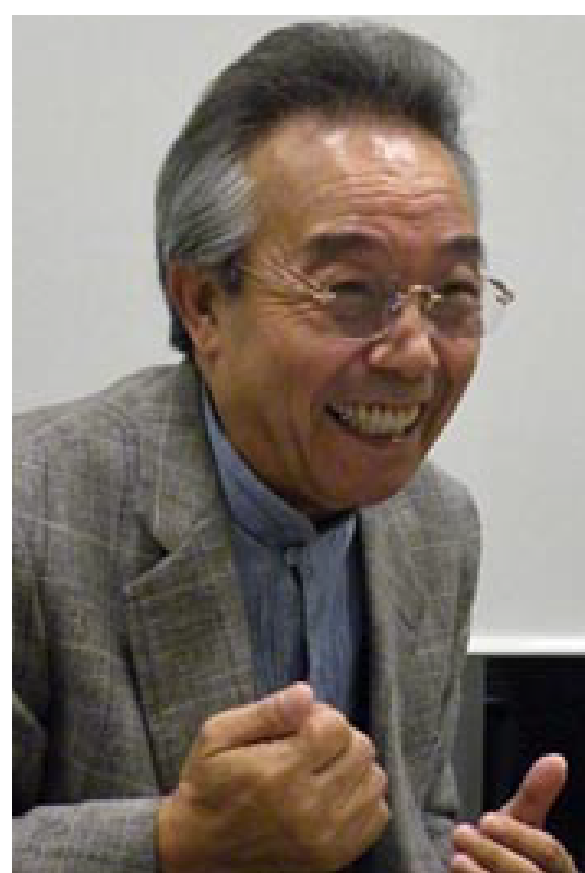


# なつかしの名画座がついにスタート



「映画本編だけでなくたくさんの隠れた物語を見つけることが、私が映画の楽しむ秘訣です。」と語る田代さん

なつかしの名画座実行委員会

## 田代 光男さん

みの〜れと共に生活するスタイル  
**Minole Life**  
のすすめ  
No.25

## 新企画を支える 映画への情熱

平成8年4月、当時東京練馬区に住んでいた田代さんは希望ヶ丘団地の新聞広告を見て、奥さんと二人でドライブを兼ねて美野里までやって来た。行里川の信号まで来たが分譲地らしきものは見当たらず、「あの坂を上っても無かったら帰ろう」と言っただけで車を走らせた。分譲地があった。というエピソードがある。美野里という美しい響きと、公園に咲く八重桜の美しさ、そして孫たちに田舎を作ってもらってあげたくてその場で購入を決めた。田代さんは希望ヶ丘団地の第一入居者でもある。

ていて、22歳の頃には自分で3本の映画を作ったこともあるという。

田代さんは古き良き名作映画を上映する四季文化館（みの〜れ）新企画『なつかしの名画座』の企画委員を務める。

なつかしの名画座が本格始動する少し前、三鷹市の主催する映画企画を視察に行ったとき、改めて映画産業の厳しさや奥の深さに驚き、ますます映画に興味を持ったという。

テレビのない時代に育った田代さんは中学生の頃から沢山の映画を見てきた。3本立て60円という時代ということもあり、休日には1日に6本を一挙に見たこともあったという。洋画、邦画、ジャンルを問わずこれまでに見た映画は数千本。今となってはこの経験が田代さんの宝物となっている。映画関係の雑誌も沢山読み、パンフレットも集めた。

「今回、映画好きが講じてみの〜れの映画の企画に携われて幸せです。」と話す田代さんが喜ぶことが大好きな田代さんはまるで少年のように輝いている。

初めてカラー映画に出逢ったのは昭和27年、田代さんが中学2年生の時だった。「カラー映画はどんな色かと…」想像を膨らませ、なんともいえない感動を覚えたという。

「いつまでも気持ちは若い時と同じ！」と毎日4時半に起床し、5時から1時間かけて8千歩は歩く田代さんのもう一つの趣味は吹き矢。石岡市にある吹き矢の会に所属している。プレイヤーは全国各地に1万5千人はいるという。吹き矢は複式呼吸なので健康にもいいし、無心で吹くので精神統一にもつながるそうだ。

実際に映画の撮影現場でファインダーを覗かせてもらったこともあるらしく「すごく感動した。嬉しくて胸が躍った」と語る。実は田代さんは映画監督になる夢を持つ

「映画も吹き矢も友達の間で広がるきっかけとなる。」とうれしそうに語っていた。吹き矢の仲間と練習以外にも毎月1回食事会をして、その後、みの〜れで行われている『光と風のステージ』を見ることが恒例行事となっているそうだ。

「なつかしの名画座には、50代、60代の団塊の世代の方に来ていただき、若い頃にタイムスリップした感覚で楽しんでほしい、みの〜れに来れば楽しいことがある。」と分かっでもらいたいと田代さんは話す。

なつかしの名画座は、2ヶ月に1度上映され、『戦場にかける橋』（7月）や『陽のあたる坂道』（9月）など懐かしい映画が予定されている。終了後は映画の余韻を楽しむ場として映画サロンを企画している。

今年5月、第1回目の上映作品『椿三十郎』終了後には感動した数名のお客さんが、サロン企画にも参加いただき、実行委員メンバーと尽きることのない映画の思い出話で盛り上がったそうだ。

みなさんもぜひ田代さんと熱く映画談義に花を咲かせてみませんか？

（藤田佐知子）